

●食物アレルギー全国実態調査

■アレルギー症例：

3年に一度、消費者庁から「食物アレルギーの全国実態調査」が発表されます。

下の表は2017年と2020年の即時型症例の原因抗原の多い順位を示しています。総数は2017年の4851例から2020年の6080例に増加しています。

食物アレルギー全国実態調査での症例数上位20品目 (●義務表示、○推奨表示 数字は順位)			
2017年度調査 (4851件)			
1	● 鶏卵	11	○ キウイ フルーツ
2	● 牛乳	12	○ バナナ
3	● 小麦	13	○ ゴマ
4	● クルミ	14	○ モモ
5	● 落花生	15	○ ヤマイモ
6	○ イクラ	16	○ アーモンド
7	● エビ	17	● カニ
8	● ソバ	18	マカダミア ナッツ
9	○ カシュー ナッツ	19	○ サケ
10	○ 大豆	20	○ イカ

2020年度調査 (6080件)			
1	● 鶏卵	11	● ソバ
2	● 牛乳	12	○ ヤマイモ/ ナガイモ
3	● 小麦	13	マカダミア ナッツ
4	● クルミ	14	● カニ
5	● 落花生	15	○ アーモンド
6	○ イクラ	15	木の実類
7	○ カシュー ナッツ	17	○ ゴマ
8	● エビ	18	○ バナナ
9	○ キウイ フルーツ	19	魚類
10	○ 大豆	20	ピスタチオ

前回調査では原因食物の上位3品目は鶏卵、牛乳、小麦でしたが、今回は木の実類が増加し、小麦を抜いて主要3大原因物質の1つになりました。木の実類の内訳をみると、クルミの増加が著しく、次いでカシューナッツが増加しています。

●は「義務表示」の食品で、○は「推奨表示」の食品です。義務表示ではなくてもイクラ、カシューナッツ、キウイフルーツ、大豆などが上位10位を占めています。

■アレルギーのタイプ：

アレルギーにはIからIVまで4つのタイプがあります。アレルゲン（抗原）が体内に入った直後から数時間以内という短い時間で症状が出るアレルギー反応は即時型（IV型）といい、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、気管支喘息などです。食物アレルギーも主に即時型に分類されます。常にアナフィラキシーなどへの準備と対策が必要です。